

モーニングセミナー 1「美容皮膚科への第一歩：ざ瘡を征服する」

(ロート製薬)

面皰に対する治療とスキンケア

座長

川島 眞 (東京女子医大)

モーニングセミナー 2

(FORCLINIC)

JetPeel (ジェットピール) -3 による Skin Rejuvenation

—最新のピーリング法およびノーニドルメソセラピーの臨床経験とそのテクニック—

座長

武藤 正彦 (山口大)

## 面皰に対する治療とスキンケア

林 伸和

東京女子医科大学 皮膚科

ざ瘡患者では、症状がごく軽度であっても感情面でのQOLは強く障害されている。ざ瘡患者のQOLを改善するには、炎症性皮疹（紅色丘疹・膿疱）はもちろんだが、非炎症性皮疹（面皰）に対しても十分な治療を行い、再燃を予防するための維持療法が望まれる。

従来の本邦での治療法では、炎症性皮疹に対しては抗菌薬の内服や外用で十分対応できるが、非炎症性皮疹（面皰）に対しては、外用レチノイドのない状況ではエビデンスの高い治療法がなかった。2000年代にはいって、本邦において施術可能なケミカルピーリングが行われるようになったが、保険適応がないことから、十分に普及したとは言えなかった。本邦でも近々に、外用レチノイドであるアダパレンが登場することで、金銭的な理由でケミカルピーリングを受けられなかった学生、時間的に通院ができなかった会社員などにも面皰に対する治療が確立することになり、日本のざ瘡治療も一歩前進することとなる。面皰治療に焦点を当てて、ケミカルピーリングやアダパレンの臨床的エビデンスとざ瘡治療ガイドラインにおける位置づけを示す。

さらに、ケミカルピーリングやアダパレンでは、乾燥や刺激感が問題となる。これらの随伴する症状に対する対策として、保湿を中心とするスキンケアの重要性はさらに高まると思われる。ざ瘡では、面皰形成を生じないノンcomedogenicな保湿剤を使用する必要がある。また、皮疹部位に外用するため、刺激の少ない安全性の高いものでなければならない。comedogenic試験と、安全性を確認する試験を紹介し、面皰治療に伴うスキンケアについて考えたい。

モーニングセミナー 2

JetPeel (ジェットピール) -3 による Skin Rejuvenation

—最新のピーリング法およびノーニードルメソセラピーの臨床経験とそのテクニク—

まりもクリニック (名古屋)

牧野 良彦

JetPeel は、空気と生理食塩水を混合し、高速のガス状にして吹きつけることでピーリングを行う医療機器です。2007 年に、シリーズも 3 代目となり、更なる進化をして新登場しました。従来品は圧縮酸素ボンベを使用するため、治療時間の制限、ガスボンベを頻回に交換する煩雑さ、空気圧の不足などの問題により、日本ではあまり普及しませんでした。今回、新登場した JetPeel-3 は、コンプレッサーを使用することにより、施術時間に制限がなく、空気圧も高まった事で更なる治療効果を得る事が可能となりました。また、3 種類ハンドピースを治療目的に応じて使い分けることにより、1 台の機器で、施術メニューのバリエーションおよび適応が大幅に増えました。

施術内容：冷却効果+リンパマッサージ、強力なクレンジング+肌質を選ばないピーリング、さまざまな薬液を使用したノーニードルメソセラピー、O<sub>2</sub>あるいはCO<sub>2</sub>ガス注入

治療適応：顔のむくみ、乾燥肌、ニキビ・ニキビ跡、毛穴の開き・黒ずみ、シミ・くすみ・色素沈着、シワ・たるみ

今回は、JetPeel-3 の原理、臨床経験を報告するとともに、その詳細な使用方法のデモンストレーションを行います。また、ボトックスを使用したノーニードルメソボトックスや FGF や EGF などの成長因子 (サイトカイン) を使用したノーニードルメソリフトなど、最新のノーニードルメソセラピーの治療方法を報告します。